

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径 No.154
2021 August
8月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生

今月のことば

ち はたら
智に働けば
かた た
角が立つ

理知的に行動しようとする、人間関係がギスギスして穏やかに暮らしづらくなることです。出典は夏目漱石の小説「草枕」の冒頭の言葉です。

視野を広げる自己研修を

- 子どもの教育に携わっていると、日ごろの生活においても学校や教育や子どものことに関心が向きがちですが、学校の外にも目を向けることが大切です。
- 学校や教育の分野以外のことに関心をもったり、それらの人たちと交流したりすることで、教師としての知識や経験を広げることができます。夏休みは恰好の機会です。

今月の交通信号の日
記念日 (8月20日)

昭和6年(1931年)のこの日、東京銀座の尾張町(現在の銀座4丁目)の交差点などに、日本初の赤・黄・青の自動信号機が設置されました。交通信号設置記念日ともいいます。

閉鎖的になりがちな学校環境

教師は朝早くから夜遅くまで、学校という限られた職場環境のなかで長い時間職務に専念しています。常に子どものこと、授業のこと、学校のことを考えています。こうした日常生活のなかで、教師としての専門的な資質・能力を高め、校内の先生や職員との人間関係を深めています。

日々の教育活動において、学校の外に目を向けたり、他の職業の人たちと交流したりする機会がどうしても少なくなりがちです。社会の動きに関心をもち、社会人としての一般常識を理解し、身につけることを怠ってしまうとの指摘もあります。住民の方から見ると、学校は特別な環境にあると受けとめられることもあります。かつて「学校の常識は社会の非常識」などと揶揄されたこともありました。

教師としての仕事(教職)を充実させるには、教育者としてスペシャリストになるとともに、社会人としてゼネラリストであることが求められます。ゼネラリストとは、あらゆる事柄に最低限の知識をもち、能力を発揮することです。両者は一見相反している関係のように見えますが、教師にとって両方とも重要な要素です。アルファベット

のTの文字にたとえると、ゼネラリストは横棒(一)に、スペシャリストは縦棒(|)に位置づきます。すなわち、「T字型の教師」として成長することが理想の姿です。

夏休みの期間は日々の教育活動から少し距離を置くことができます。年休や休暇などが比較的利用しやすい時期でもあります。ゼネラリストとしての資質・能力を高めるために、この期間を利用して地域に目を向け、行動してみてもどうでしょうか。

あえて学校教育から離れる

夏休みは、これまでの教育活動を振り返り、9月からの教育活動のことを考え、策を練る貴重な機会です。そのため、どうしても子どものことや教育のことが頭から離れません。しかし、あえて教育に直接携わっていない人たちと接したり、そうした施設を訪ねたりしてはどうでしょうか。

趣味を生かして、美術館や博物館を見学する、音楽や演劇を鑑賞する、魚つりやキャンプを楽しむ、自然体験やボランティア活動に取り組むなど、日ごろはなかなか出かけられない施設を訪れたり、できないことに挑戦したりするのはどうでしょうか。地域の行事や活動に参加するのもよいでしょう。

企業関係者や異業種の人の話を聞いたり、教育と異なる分野の図書を読んだり、あるいはイベントなどに参加したりすると、どこか新鮮さを感じるものです。新しい出会いや発見をすることがあります。これまで気づいていなかった新しい視点から、ものの見方や考え方を学ぶこともあります。ポイントは教育のスイッチをONからOFFに切り替えることです。日々の教育活動を一旦忘れ、これまでとは違った「非日常」を思う存分体験することです。

日々の教育活動を忘れて、授業や教育以外のことに関心することで視野を広げることができるだけでなく、何よりも心をリフレッシュすることができます。身につけたことや知ったこと、体験したことなどは自己の生き方を考え、これから生きる糧になります。それらは回り回ってその後の教育活動にも必ず生かされます。

夏休みを自己研修の機会として有効に活用できるようにするには、年休や休暇を取りやすいよう配慮するなど、学校としての指導体制を確立することが重要になります。



帰属意識を養う

すべての子どもたちに学級や学年への帰属意識を養うことは、学級経営の重要な課題です。集団への帰属意識はいろんな方法で高めることができますが、そのひとつに、自分みんなのために役に立っているという自己有用感をもたせることがあげられます。

ある学級でのことです。M子さんは不登校ぎみでした。先生はつぼみがついた花の植木鉢を持ってきました。そして、M子さんに植木鉢の水やりを依頼しました。M子さんは欠席すると水をやることができず、花が枯れてしまうと思ったのでしょう。毎日熱心に水やりを続けました。友だちからの「水やりはM子さんの仕事だね」のひと言も励みになったようです。学校を休むことも無くなりました。

花が咲いたとき、周囲の友だちから「M子さんが毎日頑張って水をやってくれたから、美しい花が咲いたね。どうもありがとう」と声をかけられました。M子さんはその後も毎日登校するようになったといえます。

M子さんは毎日植木鉢に水をやるという簡単な仕事を与えられたことで、責任感が芽生え、不登校の問題も解決しました。また、自分の行ったことがみんなの役に立ったことに気づくと嬉しいものです。友だちから「頑張ったね。ありがとう」と、称讃と感謝の言葉がかけられたことで、M子さんは自己有用感を抱いたのです。

学級のなかで役割をもたせ、それを果たさせることによって、子どもたちに学級の一員としての自覚と責任感が養われます。学級での係活動は、学級への帰属意識を養うための効果的な手だてだといえます。

教育の動向

「心の病」による休職者数

文部科学省の調査で、令和元年度にうつ病など「心の病」で休職した公立小・中学校、高等学校及び特別支援学校等の教職員は5478人で、前年度より266人増加したことが明らかになりました。在職者数に占める割合は0.59%で、これは200人に1人強にあたります。校種別の内訳をみると、小学校が2647人、中学校が1387人です。年代別では、30代が1477人、40代が1380人、50代以上が1789人でした。50代になると多くなる傾向がみられました。休職に至った背景や理由について

文部科学省は、残業が多いことや保護者からの過度な要求などで疲れていることのほか、業務が増加していること、学習指導要領の内容が複雑になっていること、団塊の世代の大量退職によって中堅や若手に業務がしわ寄せされていることなどをあげています。

心や体に変調を感じたときには、決して無理をせず、管理職や養護教諭に相談するとともに、関係の医療機関で受診・治療することが大切です。そして、事態が悪化するまえに、早期に対処することが重要です。

教職員間でどのようなことでも気軽に相談できる、受容的で家庭的な職場環境であることが求められます。発症した人が安心して休職できる、人的体制が整備されていることも必要です。

北俊夫の「実践と研究」の足あと 22

指導行政の場で学んだこと

教育委員会に都合8年間籍を置き、いずれも指導主事として指導行政に携わりました。教育課程や学習指導、生徒指導などについて学校や先生方にお話する機会がたびたびありました。

指導行政の場で学んだことは重要なことをいかに分かりやすく伝えるかということです。「伝えること」と「伝えること」の違いを痛いほど実感しました。伝えたいつもりが、伝わってなかったことが多かったからです。

「伝わった」状態を次のように考えるようになりました。まず、伝えたいことを理解してもらうことです。「わかった」と認識すると、そのことが知識になります。次に、わかったこと(知識)をもとに取り組みでみよう、実践への意欲をもってもらうことです。これ

は意識することです。そして、実際に取り組んでもらうことです。実行に移したとき、伝えたいことが「伝わった」といえます。その後、意識せずに取り組むようになることが常識にまで昇華した状態です。「認識→知識→意識→常識」への高まりが物事を伝える筋道であることを学びました。

こうした経験を踏まえて、伝えるための工夫を考えるようになりました。例えば、はじめに話の構成を話す。話のポイントを3点に絞る。理念に留めず、具体を例示する。具体をもとに一般化する。大切なことは繰り返して話す。メモが取れるようにする。定められた時間内で話すなどです。

教育委員会で経験した自分なりの話し方や伝え方は、その後、ものを書く機会を含めさまざまな場で生かされ、仕事の充実につながりました。

INFORMATION

夏休みにも使える

ぶんけい

算数教材搭載QRコード

- ◆くりかえし計算ドリル
- ◆計算スキルアップ
- ◆算数ドリル

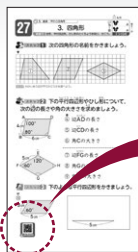
ぶんけいドリルの「GIGAスクール構想」対応!



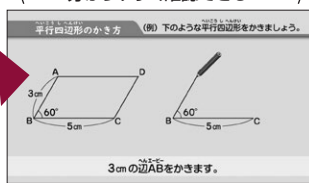
このマークが目印です!

紙面のQRコードを読み取って、簡単アクセス!

※QRコードの商標は(株)デンソーウェブの登録商標です。



アニメーションで図形のかきかたを分かりやすく確認できる!



編集後記

新しい生活様式として、かなり日常に定着してきたイベント等のオンライン配信ですが、ワクチンの普及によって、有観客による開催も増えてきました。今後はオンラインと現地参加のそれぞれのメリットを理解し、比較しながら参加者自身で選択する時代が来ると感じています。(F記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2021年8月1日